

令和4年度 学力スタンダード指導計画・報告書

教科：(理科)科目：(物理基礎) 対象：(第2学年A組～F組)

科目担当者：

教科・科目の 指導目標	学力スタンダードにもとづき、物理現象に関する基本的な概念や原理・法則の理解を図るとともに、物理学的に探究する能力と態度を育成し、 事象を論理的に考え説明できる思考力や表現力の育成に努める。
----------------	---

	前年度の学力調査分析結果	分析結果を踏まえて検討した指導内容	指導体制の確立
年度当初	1 各領域における基礎的・基本的問題 正答率76% 2 科学的思考力や複数の領域にわたる事項の知識、理解を見る問題 正答率49% 3 地学的領域に関する問題 正答率59% 4 生物的領域に関する問題 正答率76% 5 化学的領域に関する問題 正答率32% 6 物理的領域に関する問題 正答率25%	1 年間指導計画の作成・工夫 年間を通して教科書の内容がすべて終了するよう計画し、国公立及び難関私立大学の入試問題に対応できるよう、適宜教科書の章末問題、問題集を用いて演習を行う。 2 思考力を養う授業展開の設定 入試において、5の記述問題の正答率は5.5%であり、6の記述問題の正答率は20.6%であった。著しく低い正答率となっているため、計算問題の演習だけでなく、生徒自身が思考し、判断することを求める課題を授業に導入する。	1 個別の質問対応 年間を通して日常的に生徒の質問等に対応する。 2 定期考査前の対応 考査ごとに学習目標を示し、自律的学習を促すとともに、質問に対応する時間を確保する。 3 長期休業期間の課題や講習等の実施 課題等を与えて自律的な学習を促し、必要に応じて講習等を行う。長期休業期間中の講習では、実験を主に取り入れて実施する。 4 国公立、難関私立大学に合格できるように、進学指導をしっかりと行う。

	生徒の変容	生徒の学力の定着状況	次年度に向けた指導体制の改善
年度末			